

基本計画の効果的な進行 管理に向けて

原田 久
(立教大学副総長)

haradahi@rikkyo.ac.jp

1 目標管理型政策評価とは？

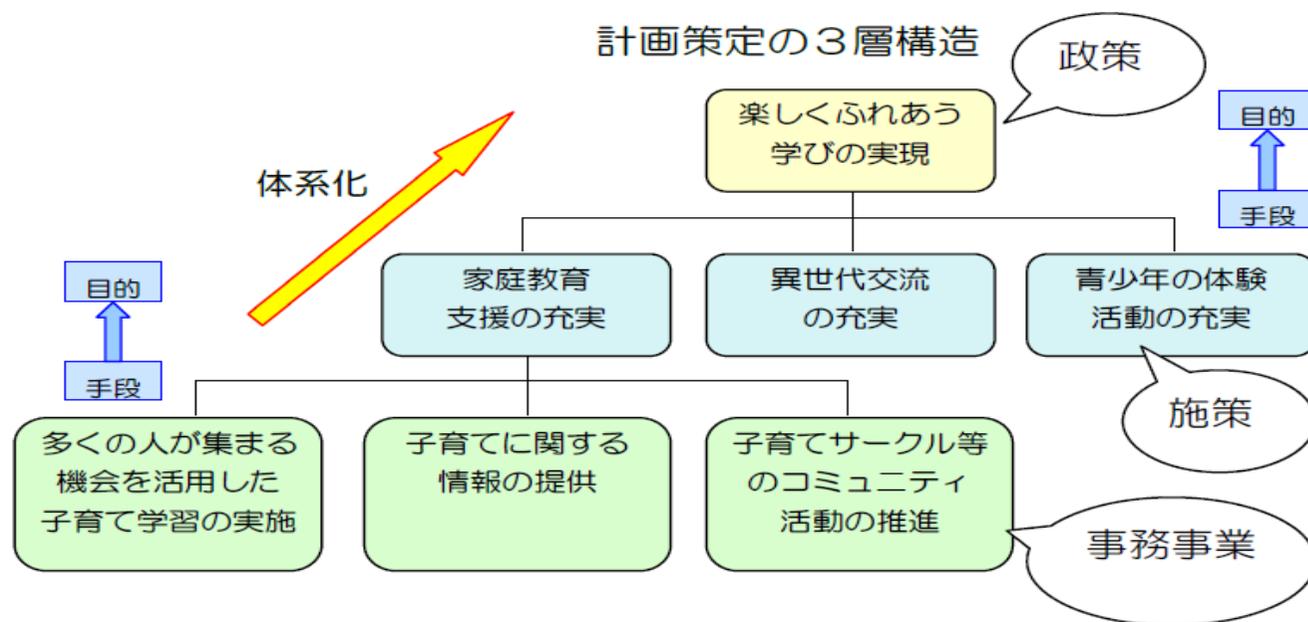
- 府省における政策評価：目標管理型政策評価が中心（あらかじめ設定された施策目標の達成度合いを事後的に評価）
- 特徴：
 - ① 簡単（特別な評価スキルを要しない）
 - ② 測定≠評価（別途，評価が必要）
 - ③ 定期検査≠精密検査（原因は不明）

2 目標管理型政策評価のあるべき姿

- ① 政策の体系化
- ② アウトカムに着目した指標設定
- ③ 目標の達成度合いの設定
- ④ 政策手段別評価

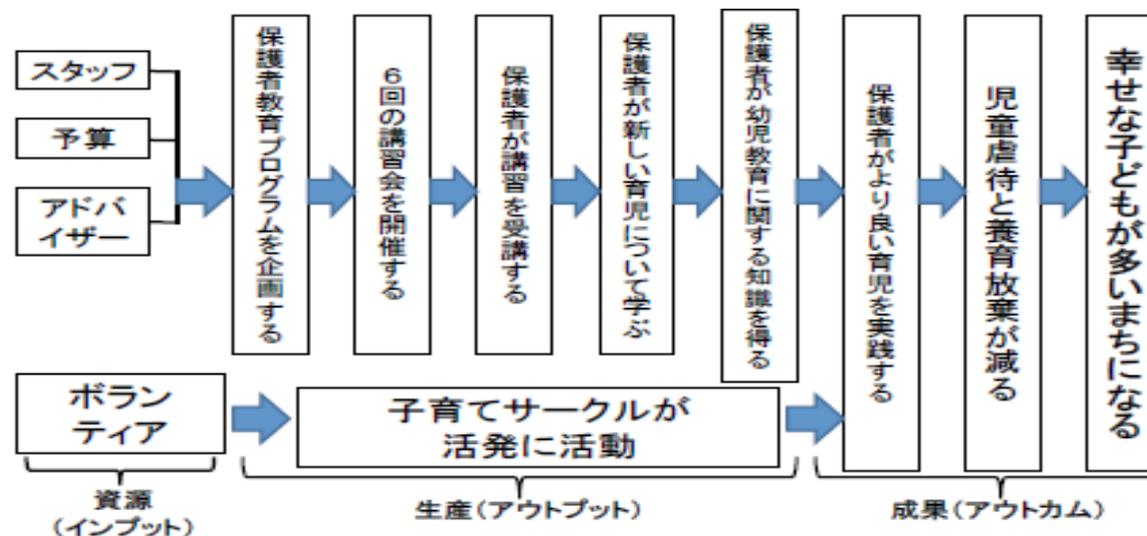
3 政策の体系化

- 政策の体系化：施策と事業との間に適切な目的・手段関係が構築されていること
- 対応策：政策ツリーの作成



4 アウトカムに着目した指標設定

- 目標の数値化：施策の目標に関し，達成しようとするアウトカム指標が設定されていること
- 対応策：事業に関するロジックモデルの作成

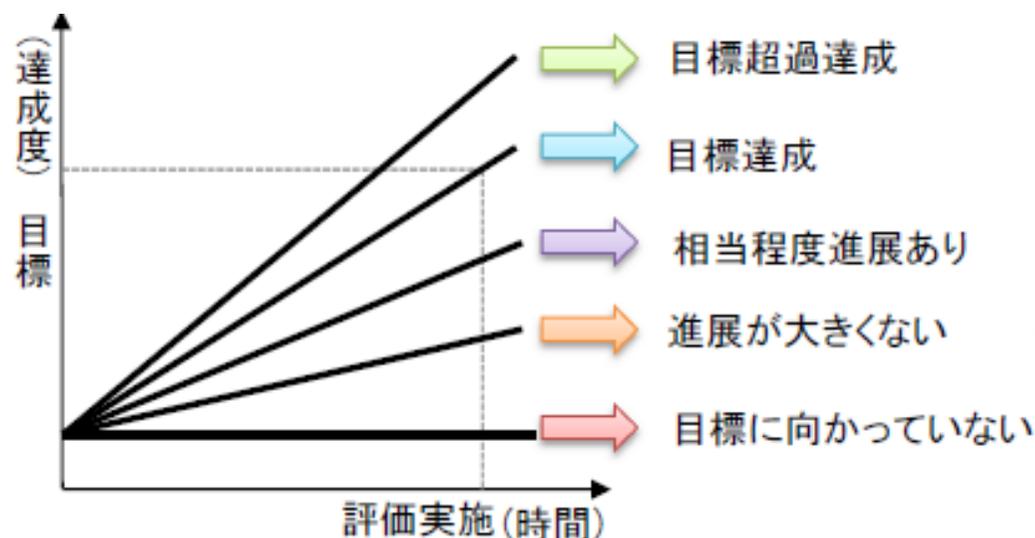


4 アウトカムに着目した指標設定(続)

- 指標は、施策の効果を捉える上で、包括的かつ定期的にモニター可能であるのが理想。代替指標あるいはアンケートも可
 - 施策類型に対応した達成水準の設定(即効薬型, 漢方薬型, 輸血型)が必要
 - 指標のロジカルな設定理由
- ※高い精度を求めない(γ -GTP)。住民とのキャッチボールの第1球目

5 目標の達成度合いの設定

- 目標の達成度合いの設定：政策手段別評価の対象を選別するため、判定方法や基準（例：%）を事前に設定
- 対応策：達成度合いの共通区分の設定



6 政策手段別評価

- 政策手段別評価の契機：例えば、共通区分で「目標超過達成」「目標に向かっていない」の評価がなされた場合、政策手段（事業）レベルの評価を実施
- 政策手段別評価：予算規模によるセレクト（例：農水省）、事業目標の達成度合いやこれを規定した内的・外的要因の深掘り分析